



特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

1 事業の総括

- 1) 現地においても全事業期間を通じて、都市部を中心に新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、当団体の支援事業に関しても、レイクセブ町の伝統的ハンディクラフト売り上げ減少による里子や奨学生世帯の収入減少などの影響は見られたが、ほとんどの事業が山岳部の人口密度が低い地域を対象としているため、コロナ禍の直接の影響は最小限にとどまった。
- 2) 予算面で最大の事業となっている教育支援については、当団体が 2002 年、および 2013 年にそれぞれその支援を引き継いだブラクール校及びサンタクルスミッション学校法人に関して、前者は 2020 年度でその支援を終了し、後者については、2020 年度末の学校運営定期支援の終了を、現地 SCMSI と元チボリ国際里親の会/JOFPA 会員に提示することができた。同時にこれらの元 JOFPA 会員には、運営面ではほぼ自立達成の SCMSI 校支援に代わる先住民族教育全体支援の要請、あるいは、長期支援の会員には、感謝とともに支援終了・退会の選択も示唆させていただいた。
一方で、年度当初の事業計画、予算策定時には、そのニーズの確認や支援予算計上が間に合わなかったレイクセブ町境のチボリやウボ民族の子どもを対象とする先住民族学校 ILS 支援について、季刊会報で、その緊急かつ深刻なニーズを会員に伝えた結果、寄せられた使途特定寄付充当による教師給与支援や学校農園・家畜飼育などの自主財源事業支援を加えることとなった。
- 3) 医療分野の事業は、開設 3 年目を迎える PIHS の助産所が「母と子の命を守る」に加えて、地域医療も支える上で必要な有資格助産師 2 名の給与や医薬品支援を実施した。一方で、PIHS や助産所事業の良き理解者でカワス村長の任にあった 5 月 29 日のロニーさん(通称ハッサン)殺害事件は、父親や夫を失った PIHS 代表ナブサさん家族だけでなく PIHS の活動、助産所運営にも一時大きな打撃を与えた。年度末を迎えても真相解明は進まないが、PIHS の助産所やコミュニティーでの研修活動はこの不幸な事件にもかかわらず、ほぼ所定の成果を上げることができた。
- 4) 環境保全・農村開発・女性自立分野については、地元で住民指導に当たる元奨学生ボニファシオと、先住民族学校代表アニータ先生に、アグロフォレストリーの小規模モデル事業や過去の事業の評価活動を委託、女性自立事業に関しては、ボルールの伝統技術ニト細工事業実施及び報告を受けた。
- 5) 広報啓発活動及び事務局運営については、コロナ感染を避けるため、非専従スタッフやボランティアの事務局出勤や作業は最小限にとどめ、代表が兼務する事務局専従が、自宅(事務局)での会報発行や現地支援事業管理など必要最小限の会務にあたった。また、コロナ禍を機に進むデジタル化への対応については、ホームページ担当の高山理事の協力により、例会や理事会開催において ZOOM 会議方式も試行、併用した。

2 各事業分野における活動報告

1) 保健・医療

① PIHS と協働の事業

保健省及び保険局認可の助産所運営 3 年目実績詳細は未入手だが、第 4 四半期の出産介助事例 31 から、前年度実績 46 人を大幅に超えたと推測している。また、近い将来の自主運営のカギとなる保険収入は、「保険加入推進研修」(2019 年度 NPO 法人 WE21 ジャパンみどり助成)の成果もあり、推計 500,000 ペソと増加した。光熱費、税金等各種納付金を含む経費は、保険収入以外の現金払いや寄付(推計 70,000 ペソ)である程度賄えているため、次年度以降は、懸案の診療車新規購入のニーズに応える支援を検討することになる。

2) 教育・人材育成

① 初等教育支援

- * CMIP 運営の小学校(4校)児童約 500 人週 3 回の給食費補助、小学生 7 名奨学金(CMIP と協働)
- * 公立移管の元住民組合立ブラクール小(約 80 名)教師 2 名の課外活動指導手当・前期分の支援。後期に関し

ては、PFP 実質的責任者ビビアンさん急逝(9月)による PFP の機能停止で中止。(PFP と協働)

- * SCMSI 校運営全体支援 (小学校 3 校教師給与のうち 5 名分相当) (SCMSI と協働)
- * 先住民族学校運営支援(教師 4 名給与・給食費補助、畜産等自主財源プロジェクト支援) (ILS と協働)

② 中等教育支援

- * ハイスクール生 23 名に各年額 1.3 万円の奨学金支援。(CMIP と協働)
- * SCMSI ハイスクール里子 31 名の授業料相当分支援。(SCMSI と協働)

③ 高等教育支援:

- * カレッジ生 6 名各年額 6.6 万円奨学金支給。医大生 1 名奨学金 63 万円支給 (平賀奨学金) (CMIP と協働)
- * SCMSI カレッジ里子 5 名の授業料相当 (推定各年額 2.6 万円) 支援。SCMSI 校出身外部カレッジ生 6 名の奨学金支援 (各年額 5.3 万円)。(SCMSI と協働)
- * あしなが奨学金: ボルルール村出身教育学部学生 1 名に支給 (年額 7.9 万円) (TBA 経由)

④ JOFPA 基金及び特別奨学金による臨床検査技師コース学生支援: ムスリム学生ザイラ支援 (PIHS 経由)

⑤ その他、各奨学金管理・報告担当者に対する手当の支給

3) 農村開発及び環境保全の活動

① 農村開発事業: コロナダルのボルルールの住民組合モデル農場事業を支援。(TBA 経由)

② 環境保全事業: レイクセブ町ティヌオス及びツピ町クロッドの過去のアグロフォレストリー助成事業評価及び報告の活動支援 (ILS 及び TBA 経由)

4) 女性自立支援の活動

① コロナダルのボルルール村アクブのニト細工組合材料費支援。約 3.5 万円の売上報告を受けた。(TBA 経由)

② 2002 年以降、販路拡大、研修、店舗建設などの支援を続けたチボリ女性組合 COWHED については、すでに地元レイクセブ町及びマニラ他での市場開拓や、貿易産業省 DTI 他の公的機関による研修支援も入っているため、コロナ禍でのハンディクラフト売り上げ減少の情報は入ったが、当団体への支援要請はなかったため、製品注文を含む支援活動はしなかった。

5) 広報・啓発の活動 (国内の活動) と事務局運営

① ホームページ更新: 各会報の公開等 (担当: 高山理事)

② 季刊「ビラーン通信」(101-104 号)、各 4 ページ。各号 200 部発行。

③ NGO 関係フェスタ: オンライン開催のよこはまフォーラム他、準備不足で不参加。

④ 事務局運営: 専従 1 名・非専従 1 名 (ともに有給) で、支援会費や会員寄付を原資とする医療、教育、環境保全、農村開発事業実施について、現地パートナー団体との連絡・送金、事業の評価を実施。その他、会員対応、会報編集、事業収支の記帳・報告等を担当した。

注: CMIP (Catholic Mission to the Indigenous People, inc) 先住民族のためのカトリックミッション
COWHED(Cooperative of Women in Health & Development) 女性の健康と自立推進組合
PIHS(Pasasambao Integrated Health Service, Inc.) パササンバオ (連帯の意) 総合健康サービス
PFP(Partners for First Peoples Foundation, Inc) 先住民族のパートナー
SCMSI(Santa Cruz Mission School Inc.) サンタクルスミッション学校法人
TBA(Tud Bolul Association) タッド・ボルルール住民組合
ILS (Indigenous Learning School) 先住民族学校

令和2年度活動計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

特定非営利活動法人ピラーンの医療と自立を支える会

I 経常収益の部

単位:円

	科目	予算額	決算額	差異	摘要
経常収益	受取会費(社員会費)	216,000	186,000	30,000	年6,000円×31口
	寄附・医療自立支援	420,000	466,500	▲46,500	年12000円×38口他
	寄附・教育支援	3,700,000	4,263,821	▲563,821	ホリ支援181万、ブラクール・あしなが支援25万円、CMIP経由支援(医大奨学金100万含む)211万円、ILS支援
	寄附・一般	1,800,000	959,501	840,499	助産所運営、先住民族学校/ILS自主財源事業、クリスマスプレゼント等使途特定寄付及び一般寄付
	(受取寄附合計)	5,920,000	5,689,822	230,178	
	受取助成金	0	100,000	▲100,000	WE21ジャパンみどり支援金
	事業収益	50,000	8,300	41,700	ハンディクラフト事業収益
	雑収入	1,000	5	995	三井住友銀行及びゆうちょ銀行受け取り利息
	経常収益計	6,187,000	5,984,127	202,873	

II 経常費用の部

	科目	予算額	決算額	差異	摘要
事業費	医療・衛生事業費	940,000	995,608	▲55,608	PIHS:助産所(給与及び医薬品・医療資材購入補助)
	人材育成事業費	4,000,000	4,214,543	▲214,543	SCMSI(学校運営・カレッジ奨学金、Xマス計145万)PIHS(臨床検査技師奨学金17.7万) CMIP(医大生他カレッジ・ハイスクール奨学金及び奨学生管理手当・給食・Xマス他計183万) PFP,TBA経由(ブラクール・あしなが22.2万)被災フール小支援2回目8.7万、先住民族学校ILS支援44.7万
	農村開発事業費	85,000	129,329	▲44,329	TBAポルールモデル農場事業(苗木及び共用農具支援)
	環境保全事業費	80,000	98,373	▲18,373	ILS(担当アニータ校長)及びTBA(農業専門家ボニファシオ)委託アグロフォレストリ評価活動
	女性自立事業費	40,000	43,337	▲3,337	ポルール村ピラーン女性ニト細工材料費他
	広報啓発事業費	90,000	60,000	30,000	HP更新謝礼(各種イベント参加費はコロナで中止となり支払いなし)
	予備事業費	100,000	0	100,000	
	事業費計	5,335,000	5,541,190	▲206,190	
	管理費	人件費	480,000	246,000	234,000
通信費		160,000	153,108	6,892	NTT、会報発送切手代ほか
旅費・交通費		110,000	1,150	108,850	事務局非専従スタッフ交通費他
印刷・出版費		40,000	23,538	16,462	会報101-104号各4ページ全4回発行(300部×2回、200部×2回)印刷代
会費・会議費		55,000	40,630	14,370	日比NGOネット(JPN)1万、JANIC3万
手数料		25,000	28,273	▲3,273	海外送金手数料220×30回、会費振込通知手数料110×140回、法務局履歴証明手数料ほか
消耗品費		30,000	31,315	▲1,315	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙
事務局賃借料		120,000	120,000	0	事務局賃借料
保険料		5,000	1,086	3,914	労災保険(専従、非専従各1名分)
管理費計	1,025,000	645,100	379,900		
経常経費計	6,360,000	6,186,290	173,710		
令和2年度末正味財産	▲173,000	▲202,163			
令和元年度繰越正味財	1,338,768	1,499,481			
令和2年度末正味財産	1,165,768	1,297,318			

令和 2 年 度 貸 借 対 照 表

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラールの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	1,297,318
流動資産合計	1,297,318
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,297,318
II 負債の部	
1 流動負債	
前受け金	0
流動負債合計	0
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
III 正味財産の部	
正味財産	
前期繰越正味財産額	1,499,481
当期正味財産増加額	-202,163
正味財産計	1,297,318
負債及び正味財産合計	
	1,297,318

令和 2 年 度 財 産 目 録

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラールの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	28,145
普通預金 三菱UFJ銀行青葉台駅前支店	113,914
三井住友銀行青葉台支店	708,575
ゆうちょ銀行	423,987
郵便振替口座	22,697
流動資産合計	1,297,318
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,297,318
II 負債の部	
1 流動負債	
助成金前受金	0
流動負債合計	0
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
正 味 財 産	1,297,318